

(様式5)

令和6年度 研究報告書

派遣者番号	R6K02	氏 名	眞田 弘之
研究主題 —副主題—	学級経営における教師の指導意識や取組についての一考察 —学級担任へのインタビュー調査を通して—		
派遣先大学	創価大学 教職大学院	指導担当者	渡辺 秀貴
所属	瑞穂町立瑞穂第一小学校	所属長	石坂 隆文

キーワード： 学級経営、目指す学級像、教師と子どもの関係、子ども同士の関係、自治の重視

要旨：本研究では、指導教員より学級経営に熟達しているとして紹介を受け、校長からも研究対象者として適任であるされた小学校教員5名にインタビュー調査を行い、対象者の「目指す学級像」、「具現化のための手立てやそれによる子どもの変化」「課題とその克服」について整理・分析し、その根幹にある子供との関係性や子ども同士の関係性、集団形成などにおいて教師がもつべき見方や考え方を明らかにすることを研究の目的とする。本研究で明らかとなった、学級担任が目指す学級像を実現し、学級経営を充実させるための促進要因として、3つの視点を示す。第一に、明確なビジョンとしての目指す学級像を基に、「子どもと共に学級を創る」意識である。第二に、教師と子どもの関係・子ども同士の関係をつなげ、深めていくことが不可欠である。教師が適切な指導・助言を行いつつ、「子どもとの上下でなく横並びで繋がる関係性」の構築である。第三に、『『自治』を重視した学級づくり』であり、特別活動の指導のキーワードである意思決定や合意形成を基に学級をつくっていくことが目指す学級像の実現に寄与する。

1 問題と目的

不登校児童生徒数が 34 万人を超え[1]、また、精神疾患等による教員の病気休職者が 6000 人を超える[2]など、教育現場が抱えている課題は一層深刻さを増している。増田・井上（2020）は、現代の教育の状況や「学級がうまく機能しない状況」（いわゆる「学級崩壊」）の実態を調査し、旧文部省が 1998 年に発表した結果と比較している[3]。それによると、調査対象者の半数を超える教員に学級経営が困難になった経験があり、教員の指導力に問題があると回答している。その割合は 1998 年度の約 43%から、2019 年度では約 73%へと増加。また、「ここ数年間で、子どもの『荒れ』や指導の疲れで退職した先生が自身の学校にいるか」という質問に、「いる」と回答した教員は、1998 年度の約 15%から 2019 年度では約 34%へと増加。つまり、学級経営が困難だと感じる教員は増加しており、子どもとの信頼関係の下に集団を形成する指導の困難さが増していることを示している。授業実践の基盤となる学級経営でこのような状況に陥っていることは看過できない。

教育課題山積の時代のこれからの学校づくりを考えると、学級経営の充実という視点は外すことはできない。教師と子どもや子ども同士が互いを尊重し合う温かな人間関係のもと、よさや可能性を発揮し合い、豊かな学びのある学校生活を共につくり上げることができるよう学級集団にすることは、子どもの学校生活を充実させるだけでなく、教師の働きがいにもつながる。教員が教職の魅力を実感しながら教職生活を円滑に送ることは、諸課題の解決に不可欠なことである。

本研究では、学級経営を充実させるための促進要因を明らかにし、教員が備える、あるいは留意すべき視点等を明らかにすることを目的とする。

2 方法

(1) 対象

東京都公立小学校の教員 5 名

(2) 分析方法

佐藤(2008)[4]「事例-コード・マトリックス」を参考にした。インタビューの音声データを逐語録化し、対象者に内容の確認後、分析テーマに該当する箇所の文章を意味内容別に小見出しを付けた。その小見出しを比較・統合しながら更に抽象度の高い言葉である「焦点的コード」に集約するため、コード同士の関係を整理した。

3 結果

(1) 目指す学級像への思い

A 教諭：子どもが「人と関わっていることが楽しめている状態」が望ましいと考える A 教諭が目指す学級像は、「子ども達同士で学び合う学級」

B 教諭：「子どもの幸せに少しでも役に立てるような教員でありたい」と願う B 教諭が目指す学級像は、「子どもが幸せな学級」

C 教諭：「子どもが軸になるような」子ども主体の学校生活にしたいと考える C 教諭が目指す学級像は、「自己選択・自己決定」による「自己実現」と「他者からの承認」が両立する学級

D 教諭：「学校は、自分が気持ちがいい、相手も気持ちがいいが基本」だと考える D 教諭が目指す学級像は、「広い場所に子ども達がいる」ような学級

E 教諭：「学級の主人公、中心って子どもじゃないきゃいけない」と考える E 教諭が目指す学級像は、「子ども達がありのままでいられる学級」

(2) 目指す学級像の実現に向けた取組

表 1 目指す学級像を具現化する取組

SC	焦点的コード	オープンコード
学級担任としての基本的な姿勢	子どもの見とり	まっさらな目で見る (A)
		感覚だけに頼らない (D)
		些細なことを見逃さない (D)
	自分の強みを生かす	自分にしかできないことをする (D)
		本音でぶつかる (A)
		自らの実態を省察する (A)
		信念を態度で示す (B)
		思いを共有する (C)
	ロールモデルとしての立ち振る舞い	憧れになる (A)
		さらけ出す (D)
		失敗を語る (E)
	子どもへの信頼	自問自答する (B)
		教師が全てを決めない (C)
		奪わず任せる (E)
		失敗しても見守る (E)
		責任をもたせる (A)
子どもとの関係づくり	時を逃さない	仲間とつなげる (B)
		年度はじめの自己開示 (A), (B), (C)
		すぐにフィードバックする (D)
	禁がりを生み出す	つぶやきを拾い上げる (A)
		思いを深く掘る (E)
	対等性の重視	一人一人と関係をつくる (A), (C)
		遊びを通して知り合う (C)
		お互いに約束を交わす (A)
		思いやりに応える (E)
		対等に話し合う (C)
子どもが自ら育つ環境づくり	伸びしろを示す	データから学級の課題を見出す (D)
		前向きになれるような関わり (D)
		振り返りをつなげる (E)
	子ども同士をつなぐ	話しやすい場をつくる (B)
		素直に表現できる場をつくる (D)
		思いを聞き合わせる (A)
		自然な関わり方をつくる (C)
		子どものよさや頑張りを共有する (C), (E)
	学級の軸の共有	目指す姿を具現化する (E)
		核心をつく (A)
		学びの心構えを整える (C)
	授業を見直す	本気を引き出す (A)
		一人の思いや考えに耳を傾ける (A), (B)
		学び合う姿勢をもつ (A), (E)
		学びの中核を子ども達とつくる (B), (C)
		枠組みと余地を与える (C)
支え合い		互いの得意、不得意を補い合う (E)
		個人に合わせたチャレンジを認める (C)
		互いの心地よさを両立させる (D)
		時間をかけて認め合う (C)

	自治を促す	協働できる活動の設定 (D)
		本当にやりたいことを実現させる (B)
		教室を学びの空間につくり上げる (C)
		小さな話し合いを積み重ねる (C)
		見通しをもたせる (C)
保護者の理解と協力を得る	情報の共有	鮮度よく伝える (D)
		教師の思いや学級の様子をオープンにする (C)
	信頼関係を築く	保護者と学校の距離を縮める (D)
		思いや願いを柔軟に受け止める (C)
		緩やかにつながる (C)
	子どもの姿を通してつながる	保護者の思いに寄り添う (D)
		子どもの頑張りを共有する (D)
チームで育てる	学年で子どもを育てる	エピソードで伝える (A)
		周りのクラスをないがしろにしない (B)
		互いの学級を高め合う (B)
		調和を大切に (D)
		子どもの悪口を言わない (A)

【学級担任としての基本的な姿勢】

子どもを見取るために、先入観をもたず、データを取り入れるなど工夫している。また、自分にしかない強みを生かし、子どものロールモデルとなるよう、自分をさらけ出し、失敗も語る。さらに、子どもを信頼し、責任をもたせ、任せる部分をつくる。そして、失敗しても見守りながら、成長を期待している。

【子どもとの関係づくり】

教師の自己開示から子どもとの関係づくりを始めている。また、子ども達一人ひとりと関係をつくる工夫を日記などの取組でしている。さらに、教師と子どもの関係を上下関係でなく、対等であると考え、話し合いなどを通して共に学級をつくっている。

【子どもが自ら育つ環境づくり】

伸びしろに目を向け、子ども達が前向きに向き合えるようにする。また、子ども同士のつながりをつくり、学び合いを活性化させる。そうした中で、学級目標などの学級としての軸を共有している。授業も子どもと共に作る意識をもち、常に省察している。さらに、子ども同士が支え合う人間関係を築き、学級活動などで自治を促している。

【保護者の理解と協力を得る】

子どもの様子や学級担任としての思いや考えを積極的に共有することで、保護者と学校の距離を縮める。また、保護者の思いや願いを受け止め、柔軟に対応する。さらに、子どもの頑張りがやさを具体的なエピソードで伝えるなど、その姿を通してつながろうとしている。

【チームで育てる】

担任する学級だけでなく、同学年の他学級を意識して取組を行う。互いの学級を高め合えるよう、理念や大切にしたいことを共有し、子どもの様子や学習・活動について情報交換を行う。

(3) 目指す学校像を実現する上で、直面してきた課題とその克服について

学級担任として、これまでの教職経験の中で、目指す学級像を実現する上において直面してきた課題とその克服について分析した。

A 教諭:「課題」子どもの個性に合わせた指導・助言。一人で抱え込む。「克服」多くの教員から情報

を収集する。複数で指導する。

B 教諭:「課題」学年として子どもを育てること。学年団での理念の共有。「克服」他学級での指導を行い、手本を示し子どもを育てる。

C 教諭:「課題」理念や取組に対しての保護者、周りの教員の理解。「克服」丁寧な情報共有。思いや願いを受け入れ、方法を変える。

D 教諭:「課題」教育や諸課題についての学びの不足。「克服」周りの教員から学ぶ。子どもから学ぶ。研修制度を活用する。

E 教諭:「課題」目指す学級像を子ども達と共有し、一緒につくること。「克服」周りの教員から学ぶ。子どもに求めたい姿を自分の言動で示す。

4 考察

学級担任が目指す学級像を実現し、学級経営を充実させるための促進要因として、三つの視点を示す。第一に、「明確なビジョン」を基に、「子どもと共に学級を創る」意識である。第二に、「教師と子どもの関係」「子ども同士の関係」をつなげ、深めていくことが不可欠であり、教師が適切な指導・助言を行いつつも、子どもと上下でなく横並びでつながるような関係が望ましい。そして第三に、『自治』を重視した学級づくりであり、特別活動の指導のキーワードである意思決定や合意形成を基に学級をつくっていくことが目指す学級像の実現に寄与する。

【引用文献】

- [1]文部科学省(2024)「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
- [2]文部科学省(2023)「令和4年度 公立学校教職員の人事行政状況調査」
- [3]増田修治・井上恵子(2020)「学級がうまく機能しない状況(いわゆる「学級崩壊」)の実態調査と克服すべき課題 —1998年度と2019年度の学級状況調査を比較して—」,『白梅学園大学・短期大学教職課程研究』,3号,2020, pp.11-40
- [5]佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法』,新曜社

【主な参考文献】

- ・藤川大祐(2012)「学級経営と利得構造 —学級経営研究のための試論—」,『授業実践開発研究』,第5巻,2012, pp.1-5
- ・藤森宏明(2014)「教職大学院制度がもたらした教育・研究に対するインパクト —とくに学級経営領域に着目して—」,『北海道教育大学大学院高度教職実践専攻研究紀要』,第4号, pp.27-37
- ・石川美智子(2016)「学級経営の動向 —学級の変遷・戦後の学級経営論文と小学校教師への調査—」,『佛教大学教育学部論集』第27号, pp.15-

- ・阿部隆幸（2019）「「学級経営」研究の整理と今後の方向性」,『日本学級経営学会誌』, 第1巻, 2019, pp.5-8
- ・工藤亘 編著, 川本和孝・村井伸二・山口圭介 著（2020）『アドベンチャーと教育 特別活動とアクティブ道徳』, 玉川大学出版部, pp.84-86
- ・有村久春（2011）『カウンセリング感覚のある学級経営ハンドブック』, 金子書房, pp.16-31
- ・弓削洋子・越良子 編著（2024）『学級経営の心理学 子どもと教師がともに成長するために』, ナカニシヤ出版, pp.93-97
- ・河村茂雄（2012）『学級集団づくりのゼロ段階 学級経営力を高める Q-U 式学級集団づくり入門』, 図書文化社, pp.15-18, pp.36-70